

## 全校朝会講話 『安全』はいつも心がける

おはようございます。お話をします。

今日は、「安全」について話をします。

避難訓練のときに、「自分の命は自分で守る」ということをよく言いますが、それは、災害のとき以外でも大切なことです。どんなときでももっていてほしい気持ちです。

少し前まで、「秋の交通安全運動週間」でした。すでにその週間は終わっていますが、今、みんなの交通安全に対する意識はどうでしょうか？

交通事故のことなど、全く考えてもいないという人もいるのではないのでしょうか？

みんなの登校の様子を見たり、地域の方の話を聞いたりすると、最近は道いっぱい広がって歩いている人が多いことが分かります。少し前まではできていたことなのに、できなくなっていることは不思議です。特に、青コース・黄色コースの人、給食門の手前までのところは、どのように歩いているのでしょうか？ 道路は広がらず、端を歩きます。

次に、特に1年生、横断歩道を渡るときや、交差点を歩くとき、手を挙げていますか？ 1学期に担任の先生から話があったはずですが、よく思い出して、しっかりやりましょう。

ついこの前、とても危ない場面も見ました。学童からの帰り、ここには大人は誰もついていません。そのときに、学校の裏の道路には歩道があるのに、わざわざ車道に出てふざけて歩いている人がいました。これは本当に危険です。絶対にダメです。

他にも、前を見ていない、走る、友達と体をぶつけあってふざけているなど、危ない様子がたくさん見られます。

どれだけ気を付けていても、事故やけがが起きてしまうことがあります。何も気を付けていなければ、その危険は何倍にも広がります。

大人が付いているとき、大人が見ているときだけしっかりできていても意味はありません。みんなの生活は、大人と一緒にいる時間がたくさんあります。

「自分の命は自分で守る」という気持ちをしっかりと持って生活するための第一歩は、学校内での生活です。廊下を走るような人は、自分の命を守れないだけでなく、人の命も危険にさらします。

学校内でも、登下校のときも、みんなの歩き方が正しいものになることを期待しています。

これで、お話を終わります。